

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
理念に基づく運営						
1. 理念の共有						
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者個々の生き方を尊重したパーソンセントードケアの実践し、有する残存機能を引き出しながら共同生活で充実した暮らしをできるように努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月ケア会議を実施して、理念の実践に努めている。		
3		家族や地域への理念の浸透	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議や地域交流スペースの活用等をし、家族や地域の方々との接点を作り、理解をもらえよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい						
4		隣近所とのつきあい	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物等外出時には挨拶を行い、少しずつ会話をできる場を設けるよう努力している。		
5	3	地域とのつきあい	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りや敬老会の参加、町会会合等地域交流スペースを活用、町会の踊りの方や幼稚園児の定期的な慰問等交流は図れてき		今後年間行事計画を町会へも提供し、町会を呼べるような内容の企画を実施して、地域交流をしていきたい。
6		事業所の力を活かした地域貢献	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域交流スペースを活用し、様々な催しものや交流機会を取れるように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用						
7	4	評価の意義の理解と活用	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月1回ケアカンファレンス・ケア会議・随時ショートカンファレンスを取り入れ、評価・情報収集に努めている。		
8	5	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や家族等期間の調整をして、実際の状況報告や意見交換を行い、サービスの向上に努めている。		
9	6	市町村との連携	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要時は、市町村へ電話や訪問し、指導や意見交換、情報収集を行い、質の向上に努めている。		定期的に運営推進会議を実施して、より近い情報を提供し、市町村との連携とサービスの質の向上に努めて行きたい。
10		権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるような支援している	活用するために包括支援センターと連携を図り、職員へ内容報告し情報の共有に努めている。		今後講習会等へ参加することにより、必要な支援が行えるよう努めて行きます。
11		虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県の研修等へ参加し、申し送りや会議等で情報交換し、現場でもカンファレンスを通し職員が状況把握しあい虐待防止に努めて		
4. 理念を実践するための体制						

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
12		契約に関する説明と納得	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回相談時から十分に面談を行い、更に契約時に重要事項説明において、説明を行い、解約時においては、不満や疑問点に答え納得していただいている。		
13		運営に関する利用者意見の反映	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回ケアマネージャーが自宅を訪問したり必要時には、電話にて状況を聞き、修正する点はすぐに職員へ報告し運営に反映できるよう努めている。		
14	7	家族等への報告	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所内での利用者の暮らしぶり金銭管理については、月に一度報告し健康状態については、変化があれば早急に対応している。また、連絡帳を活用し利用都度状況報告している。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設において苦情相談窓口を設置し、地域包括支援センターや国保連苦情相談窓口の存在を伝えている。		定期的な面談等の時間を設定して、運営に反映できるよう努めていきます。
16		運営に関する職員意見の反映	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファンスに管理者は出席して職員の意見を聞き、必要な提案意見事項は会社へ報告し運営に反映させられるよう働きかけている。		評価表等作成し、実施の状況・成果を記録していきたい。
17		柔軟な対応に向けた勤務調整	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	バックアップが可能な勤務体制を確保している。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をし	殆どの職員を常勤雇用して、異動や離職には十分配慮している。異動・離職の場合も引継ぎ等十分に行っている。		
5. 人材の育成と支援						
19	10	職員を育てる取り組み	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアカンファやケア会議で、研修資料や事例を基に、指導・ディスカッションを実践し、質の向上に努めています。		内部外部両方の研修も積極的に取り入れて行き、機会を増やしたい。
20	11	同業者との交流を通じた向上	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡協議会への参加をしている。		今後、他事業所との連携をはかり、様々な交流の場を持てるよう関係拡大に努めたい。
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個別面談や、随時コミュニケーションを図るよう努めている。		相談箱の設置で、随時受け入れ可能な体制を確保したい。
22		向上心を持って働き続けるための取り組み	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人面談と自己評価・業務チェック表や勤務実績による評価を行い、現場での業務向上につとめてもらえるよう働きかけている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応						

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
23		初期に築く本人との信頼関係	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談を必ず実施して、本人を少しでも状況把握できるよう努めている。		
24		初期に築く家族との信頼関係	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学・面談や電話連絡等と時間をかけて、状況把握に努めている。		
25		初期対応の見極めと支援	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	それぞれのニーズを整理して、必要なサービスを都度検討して話を進められるよう努めている。		
26	12	馴染みながらのサービス利用	本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を必ず取り入れ、本人・家族が納得してもらうことを前提に利用開始を進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援						
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の生活リズムやペースを配慮し、会話や話を聞き、落ち着いて本人なりの行動ができるよう支援して行けるよう努めている。		個々において様々な取り組みを行いたい。
28		本人を共に支えあう関係	家族との職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時の談話や必要時は電話連絡を取り合う等情報を共有し、信頼関係を築けるよう努力している。		
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面談時や入居後も定期的な連絡や、面会時の状況報告で、現在の本人と家族の関係がより良く築けるよう配慮し、少しでもお互いが身近であれるような支援に努めている		
30		馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出・電話連絡等を積極的に家族へ依頼して、関係が途切れないよう支援を行っている。		
31		利用者同士の関係の支援	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が環境設定したり、関わりを多くするような機会をつくり、さりげない対応にて、支援している。		
32		関係を断ち切らない取り組み	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ケアマネジャーを通し情報を得たりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
1. 一人ひとりの把握						
33	14	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話や思いを考え、その時の対応を、カンファレンスで検討し、様々な角度から対応できるように検討している。		希望と意向についてもっと理解できる力をつけていきたい。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
34		これまでの暮らしの把握	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談の段階で情報を把握し、これまでの生活環境に少しでも近づけるよう家族の協力を得ながら居室作りや日常の流れ等工夫して実施するよう努めている。		
35		暮らしの現状の把握	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活の中から、役割や目的をその有する力等で利用者・職員が一緒になり探しながら現状を把握していけるよう努めてい		更なる総合的な現状把握をできる力を身につけていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し						
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスを実施して、ケアマネと職員が情報交換を行い、様々な目線での意見を基に介護計画を作成し実践できるよう努め		職員それぞれが利用者本位をしっかりと把握できるよう、チームのあり方を考えていきたい。
37	16	現状に即した介護計画の見直し	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月一度カンファレンスを行い、必要時は家族や関係者より情報をもらい、現状に合わせた介護計画を作成するよう努めている。また退院時も現状把握し新たに介護計画を作成し実践に生かしている。		
38		個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や連絡帳を活用し、職員同士情報を共有し、目的等のある程度明確にして、チームで実践するよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援						
39	17	事業所の多機能性を活かした支援	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	共用スペースや行事等を活用して、利用者や家族、地域の方との交流や生活の幅を広げて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働						
40		地域資源との協働	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議の開催や消防訓練を実施して地域との協力体制を築いている。		様々なボランティアの方を受け入れて、楽しい時間を過ごせるよう取り組んでみたい
41		他のサービスの活用支援	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	マッサージやリハビリ・訪問歯科等を取り入れている。		
42		地域包括支援センターとの協働	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	該当者なしのため、協働の機会がない。		情報交換や制度等の説明を定期的に話しあえる機会を作りたい。
43	18	かかりつけ医の受診支援	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望にてかかりつけ医は決めていただき、協力医療機関がかかりつけ医の場合は、往診や緊急対応はすみやかに連携を図っている。		
44		認知症の専門医等の受診支援	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医への連絡をはかり、必要時は受診したり、アドバイスをもらっている。		
45		看護職との協働	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をし	事業所内の看護職との連携を図っている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
46		早期退院に向けた医療機関との協働	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連	いつでも受け入れができるように医師や家族との連携を図り情報交換をしている。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化については、相談し対応を協議しているが、終末期については現在受け入れ検討中であり、まだチームでの協力体制が整っていない。		定期的な話し合いの機会を作り、かかりつけ医師と密に連携を図っていきたい。
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化については、相談し対応を協議しているが、終末期については現在受け入れ検討中であり、まだチームでの協力体制が整っていない。		重度化や終末期について、かかりつけ医師や家族、施設とで十分な話し合いをもち、今後構築していきたい。
49		住み替え時の協働によるダメージの防止	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人・家族・ケアマネジャー・事業所と可能な限り時間をかけて話し合い、何が今大事なのかを相談の上、本人の混乱等を最小限にするよう努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
1. その人らしい暮らしの支援						
(1) 一人ひとりの尊重						
50	20	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけは、誇りやプライバシーには十分注意し、個別ケースやファイルは所定の保管場所へ置き、外部へは必要時以外もちたさない。		
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の訴えや希望にはしっかり話を聞き、サービス計画書を作成し、本人と家族の同意のもとサービスをしている。		
52	21	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の一日の目標や役割を考えた流れを大事にして、ゆとりがある時間を過ごしてもらえよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援						
53		身だしなみやおしゃれの支援	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	モーニングケアや入浴後の衣類を一緒に選んだり、理容・美容には家族の協力もかりて出かけていただくケースもあり、行きつけや馴染みの環境提供の支援に努めている		いつでも出かけられる身だしなみを徹底したい。
54	22	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューに沿って一緒に調理したり、盛り付けをして、家庭的な雰囲気のもとで食事を楽しんでもらっている。		様々な手作り料理に取り組みたい。
55		本人の嗜好の支援	本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好の把握や調理の工夫で、本人の状況に合わせて食事を提供している。行事でも様々なメニューに取り組んでいけるようになってきている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
56		気持ちよい排泄の支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している	昼夜観察し排泄の状況を把握し、本人の身体状況に合わせて排泄が行われるように支援している。		
57	23	入浴を楽しむことができる支援	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日好きな時間で入浴できるよう配慮し、声掛けて促している。		
58		安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日その時に合わせて、本人のペースで就寝されるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援						
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や特技を活かしながら、その日その日で促したり、日課を探し、本人の生活のリズムに合わせて充実した生活を送れるよう支援している。		個別支援を充実する。
60		お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のおこずかいを持ち、買い物へ月に数回出かけて、買いたいものを選んでもらい購入してもらえよう支援している。		個別に買い物へ行き、金銭の支援を実践する。
61	25	日常的な外出支援	事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物での外気に触れる時間を確保するよう努めている。		
62		普段行けない場所への外出支援	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事として企画を立てたり、要望に合わせて外出・外食したり機械を作るよう努めている。		
63		電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は居室に取り付けられ、窓口では随時取り次ぎたり、本人携帯も使用している方がいる。手紙もやり取りできるよう配慮して		
64		家族や馴染みの人の訪問支援	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は決めてあるものの、居室や居間等のスペースを利用してもらったり、外出・外泊等は随時うけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援						
65		身体拘束をしないケアの実践	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを使用して、抑制の定義も理解している。		
66	26	鍵をかけないケアの実践	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組ん	日中は玄関や居室の施錠はせずに、自由に出入りが可能な状況にしてある。		
67		利用者の安全確認	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の見守りや様子観察を行い、安全で過ごしやすい環境をつくっている。		
68		注意の必要な物品の保管・管理	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所は一定の場所にして、管理者と当日の職員が確認して保管している。		
69		事故防止のための取り組み	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ケア会議で事故防止について勉強会を実施している。		参考資料や個別情報、マニュアル等を作成していく。ヒヤリハット、事故報告書の活用

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
70		急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成して、実施できるようにしている。		職員自ら積極的に学べる環境を作る。
71	27	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間最低1回以上の災害訓練を、消防署・地域の方を招き実施をしている。		
72		リスク対応に関する家族等との話し合い	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約書と重要事項にて説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援						
73		体調変化の早期発見と対応	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りと随時ショートカンファレンスを実施して情報の共有をしている。		
74		服薬支援	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに内服薬の情報書をファイルしており、随時確認できるようにしてある。		
75		便秘の予防と対応	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	乳製品を取り入れたり、運動や水分を摂取量の確認等、毎日内容を工夫している。		
76		口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケア実施し、口腔内の観察も行っている。		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは栄養バランス分等考慮し、水分は随時内容を変え提供している。		
78		感染症予防	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス)	毎日一回以上の消毒(ユニットごと)実施をしている。		
79		食材の管理	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日消毒・随時漂白の実施し、食材の期限等担当のスタッフが確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり						
(1) 居心地のよい環境づくり						
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節にあった利用者との手工芸作品や張り紙等を飾っている。		飾りを充実させたい。
81	29	居心地のよい共用空間づくり	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と食堂の空間を分け、それぞれの時間を好きな方と過ごしていただけるよう配慮し、季節にそった利用者の作品や写真を掲示し、落ち着いた環境づくりをしています。		
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂の空間を分け、それぞれの時間を好きな方と過ごしていただけるよう配慮している。		個別でも過ごせる環境を工夫して提供したい。
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に家具・持ち物は自由に持ち込んで、住み慣れた居室環境を提供しています。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
84		換気・空調の配慮	気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	随時喚起を行い、気温系や湿度計を計りながら、必要に応じて空調調整を実施します。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり						
85		身体機能を活かした安全な環境づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や共用部分の環境整理をし、危険因子を無くすよう安全管理に努めている。		
86		わかる力を活かした環境づくり	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	生活の中から問題点等を把握し、日頃の様子やカンファレンスを通して、自立支援につながるよう努めている。		
87		建物の外周りや空間の活用	建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周には花壇・ベランダには植木鉢等個々の活動範囲に合わせ、環境を活かしてい		活動の回数を増やし、内容も充実できるよう全員で取り組んでいきたい。

(様式1)

自己評価票

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
サービスの成果に関する項目			
88		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいの <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
89		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> たまにある <input type="checkbox"/> ほとんどない
90		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
91		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
92		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者がこころへ出かけている <input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
93		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
94		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
95		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどいない
96		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/> ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 数日に1回程度 <input checked="" type="checkbox"/> たまに <input type="checkbox"/> ほとんどない

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
97		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="checkbox"/> 大いに増えている <input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> あまり増えていない <input type="checkbox"/> 全くいない
98		職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が <input checked="" type="checkbox"/> 職員の2/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
99		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
100		職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない